

専門ゼミ A		演習	教授 竹内 成生
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目, スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	11130301

1. テーマ

本ゼミでは心理指標と生理指標を用い、スポーツ・健康の生理心理学的評価をおこなう。

2. ゼミのねらい・概要

我々は日常行動の多くの場面で生理-心理的な制約や影響を受けている。例えば、過緊張場面では視野が狭まり、複雑かつ咄嗟な行動が困難になる。このような生理-心理的な関係性から最適パフォーマンスを発揮するための方法を探ることが可能である。更には競技スポーツだけでなく、健康スポーツに代表される健康行動の解釈や、行動傾向の改善においても生理心理学的な視点は有用である。本ゼミでは生理心理学的研究手法を用い、スポーツや健康に関する理解を深めることをねらいとする。また、問題提起-検査-実験-考察という一連の作業を通じて論理的思考と表現能力、客観的データの見方を養うものとする。

3. ゼミ計画

1. スポーツ・健康と生理心理学の概説	9. 心理分野の研究法実践1 (目的を設定する)
2. 心理分野での研究方法の説明	10. 心理分野の研究法実践2 (資料収集1: 論文検索)
3. 心理検査の種類と説明	11. 心理分野の研究法実践3 (資料収集1: AI活用)
4. 心理検査の実施	12. 心理分野の研究法実践4 (問題点を整理する)
5. 心理検査の集計	13. 心理分野の研究法実践5 (仮説を立てる)
6. 心理検査の解析と評価	14. 心理分野の研究法実践6 (研究計画を知る)
7. 生理データの測定体験1 (定位反応)	15. 前期のまとめ
8. 生理データの測定体験2 (嘘発見・心的動揺)	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

自身のテーマを早期に決定できるよう、興味に関連した文献を収集・熟読し、ポイントを整理しておくこと。また自身研究に関係する周辺知識の理解や実験・調査手法、とデータ処理の習得等を含め準備学習時間として2時間程度を要する。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

生理データ取得・データ分析時に適宜、コメント・指導する。また、論文紹介やディスカッションにおいて各自に講評をフィードバックする。

6. ゼミにおける学修の到達目標

生理心理学的研究手法によるスポーツや健康に関する理解を深め、卒業研究に必要な論理的思考と表現能力、客観的なデータの見方を養うことを目標とする。なお、年間予定している主なテーマと到達目標は以下のとおりである。

- ・ 心理学分野の専門書、実験・調査論文などを用いて心理学とその検討方法の理解を深める。
- ・ 生理・心理学的検討において用いられる指標の紹介とデータの見方の基本を学習する。
- ・ 模擬データを実際に取得し、検査・実験方法とデータ処理を習得と解析手法の理解を深める。
- ・ 興味テーマに関する議論からテーマの絞り込みをおこなう。

各自、決定したテーマについて予備実験・検査を実施する。

7. 成績評価の方法・基準

発表内容(30%)、発表資料(30%)、受講態度・積極性(40%)を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。しかし、心理学の基本ならびに周辺分野を広く網羅しており、事典・参考書として最適であることから、参考図書として以下の書籍を推奨する。

※鹿取 廣人・杉本 敏夫・鳥居 修晃（編） 心理学（第5版補訂版） 東京大学出版会（ISBN-13: 978-4130121170）

※山崎勝男（監修） スポーツ精神生理学 西村書店（ISBN-13: 978-4890134298）

9. 受講上の留意事項

スポーツ・健康に関する生理心理学的評価方法を学び、スポーツ・健康活動に関するテーマを学生自ら率先して見出すことを期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。